

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	住之江区
学 校 名	大阪市立平林小学校
学校長名	家田 志朗

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立平林小学校では、第6学年 19名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科については、「情報の扱い方に関する事項」や「話すこと・聞くこと」の領域で全国平均を上回ることができた。しかし、「言葉の特徴や使い方に関する事項」については全国平均を大きく下回る結果となり、指導の改善の必要性が見られた。

算数科については、「図形」の領域で全国平均を上回ったものの、その他の領域では全国平均を下回り、特に「変化と関係」の領域では、その傾向が顕著で課題が見られた。

理科については、いずれの領域でも全国平均を下回る結果となり、指導の改善の必要性が見られた。

児童質問調査については、平日の学習時間において二極化が見られ、「まったく学習しない」と答える児童の割合が、25%を超えており、学習習慣の定着の課題が浮き彫りとなった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕様々な資料から、自分の考えに合うように資料を選択しまとめる問題では、全国平均を超えており、成果が見られた。一方で、同音異義語に関して正しい漢字を書くことに課題が見られ、漢字の学習方法については改善の必要性が見られた。

〔算数〕異分母のたし算の計算では、全員が正答できており、正しく計算することに成果が見られた。一方で、異分母のたし算の計算の仕方を説明する問題では、正答する児童が少ない結果であった。今後、計算力の向上だけでなく、計算の方法を説明する力の育成にも力を入れていく必要性が見られた。

〔理科〕与えられた実験結果から、数値を用いて文章でまとめる問題では、全国平均を上回る正答率となり、成果が見られた。一方で、顕微鏡の使い方に関する問題では、操作方法について正しい操作方法を答えることができる児童が少なく、特にピントを合わせるためにどのように操作する必要があるかについて課題が見られた。今後、様々な実験の際に道具の使い方についてもしっかりとおさえる必要性が見られた。

質問調査より

「自分には、よいところがあると思いますか」や「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対して肯定的に回答する児童の割合が、全国平均を超えており、自尊感情を高める取り組みが進んでいる結果となった。さらに、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問に対して、もっとも肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合が顕著に高く、周りの様子をみて行動できるようになってきていることがうかがえる結果となった。

平日の家庭での学習時間について「3時間以上」と回答する児童の割合は20%を超えている一方、「全くしない」と回答する児童の割合が26%であった。家庭での学習習慣が二極化しており、家庭での学習習慣の定着を行う必要性が見られた。

今後の取組(アクションプラン)

学力向上支援チーム事業を活用して、教員の授業力の向上に一層励むとともに、効果的な指導方法について研修を行うなど、これまで行ってきた指導の在り方について、再度振り返ることができる機会を設ける。特に、漢字の学習については、校長経営戦略支援予算を活用して漢字検定を行っていることから、日々の漢字学習に力を入れることができるよう取り組みを推進していく。さらに、一人一台学習者用端末を有効に活用して、個別最適な学びが進むよう研究を進めていく。

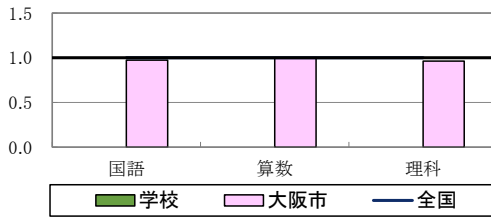
また、家庭学習の定着を図るため、家庭にも協力いただけるよう啓発を行っていく。

【 全体の概要 】

平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	非公表	非公表	非公表
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

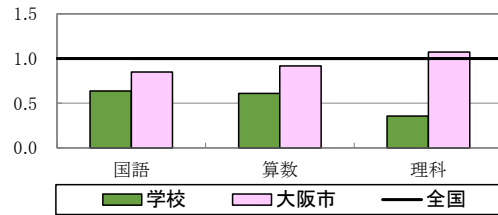
平均正答率(対全国比)



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	2.1	2.2	1.0
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

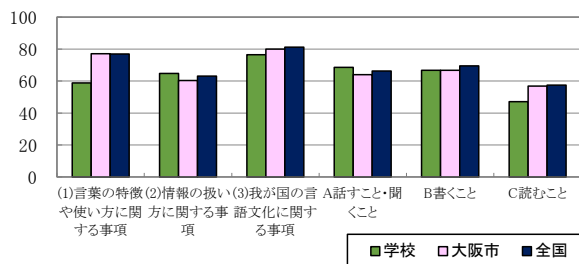
平均無解答率(対全国比)



【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使 い方に関する事項	2	58.8	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	64.7	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	76.5	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	68.6	64.0	66.3
B 書くこと	3	66.7	66.7	69.5
C 読むこと	4	47.1	56.9	57.5

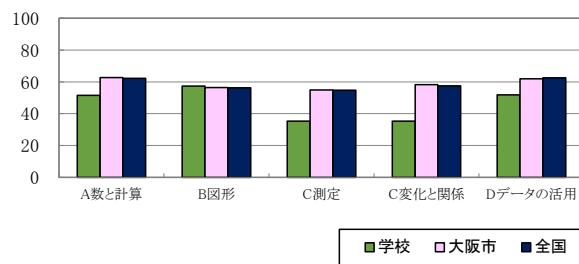
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



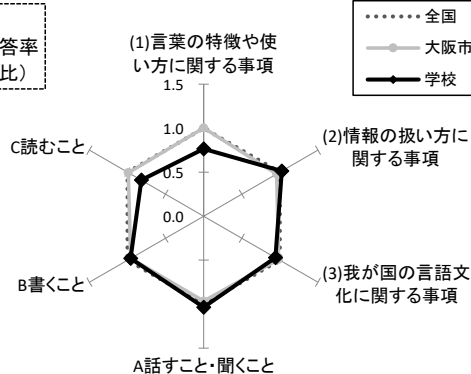
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	51.5	62.7	62.3
B 図形	4	57.4	56.4	56.2
C 測定	2	35.3	54.9	54.8
C 変化と関係	3	35.3	58.2	57.5
D データの活用	5	51.8	61.9	62.6

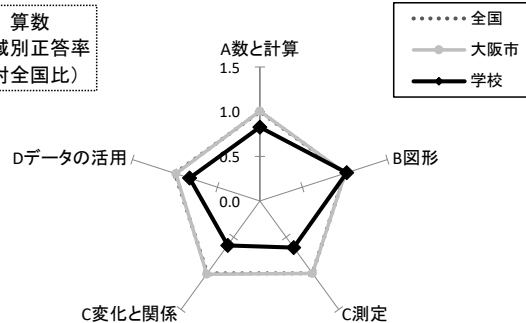
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 内容別正答率 (対全国比)

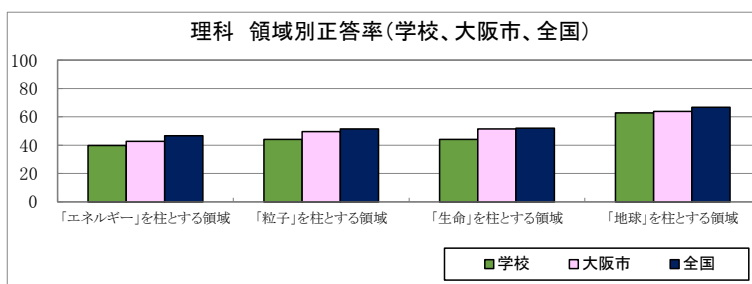


算数 領域別正答率 (対全国比)

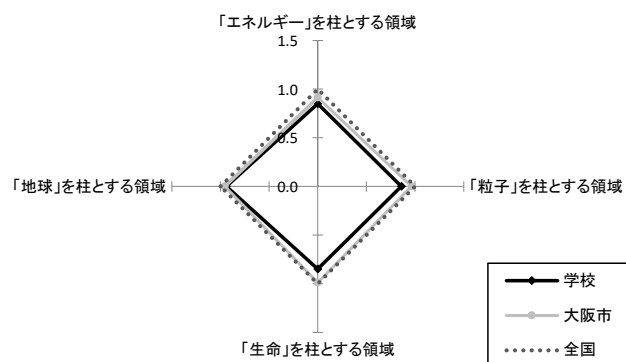


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域		対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	39.7	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	44.1	49.5	51.4
B 区分	「生命」を 柱とする領域	4	44.1	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	62.7	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

質問番号

質問事項

5

自分には、よいところがあると思いますか

1

2

3

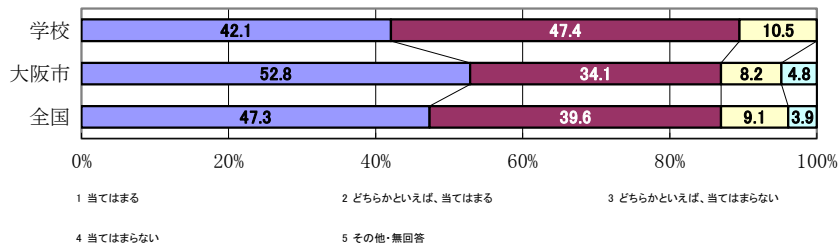
4

5

6

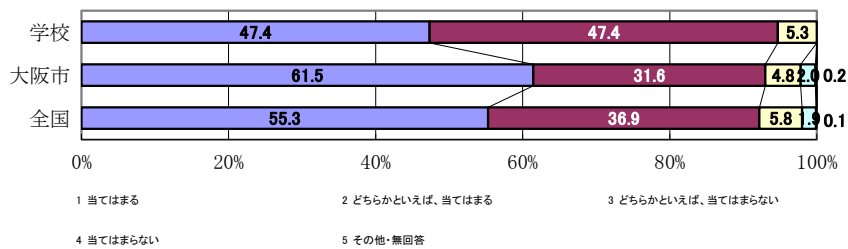
7

8



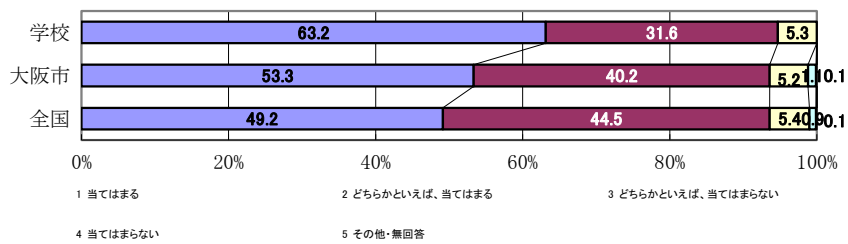
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



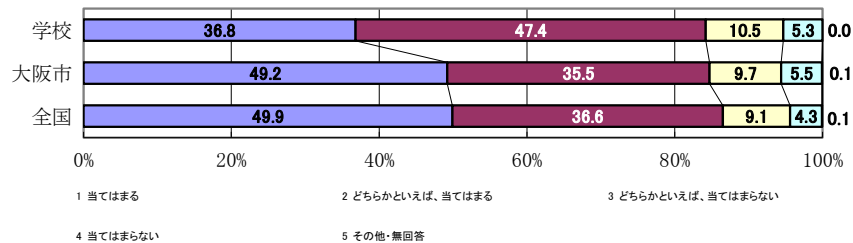
8

人が困っているときは、進んで助けていますか



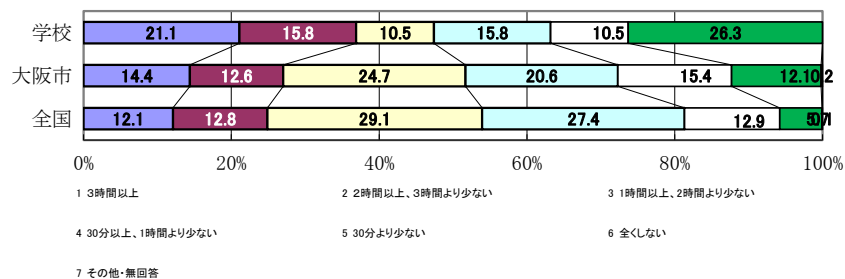
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



学校質問より

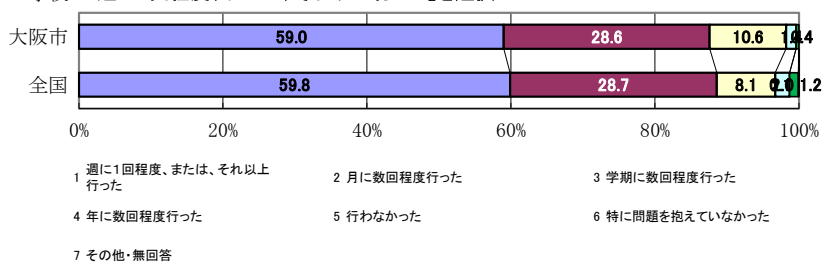
質問番号
質問事項

12

前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

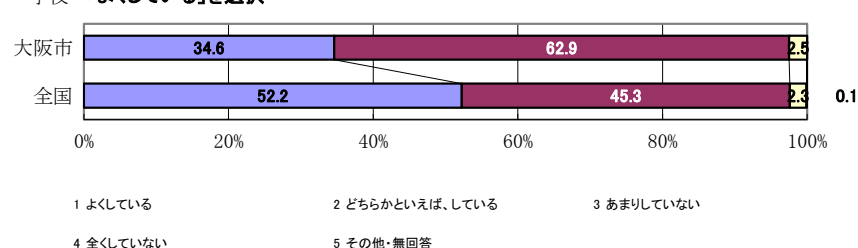
学校 「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



16

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

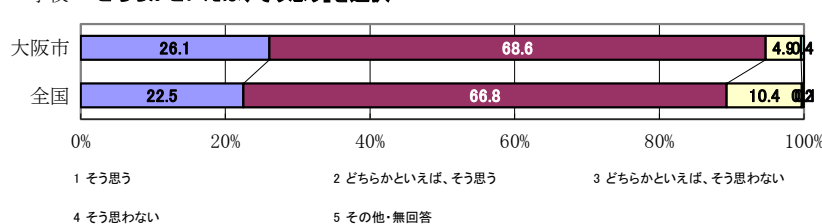
学校 「よくしている」を選択



25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

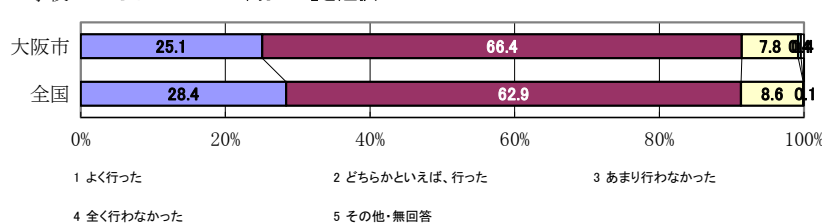
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



45

調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「週1回以上」を選択

